

京 都 支 部 報

No. 2

1978.11.13

左 京 区 吉 田 本 町
京 大 經 済 学 部 田

ただちに活動はじめる

才1回世話人会 10月28日

大図研京都支部の才1回世話人は10月28日午後、立命館大学(広小路)でひらかれ、次の諸点をきめました。

1. 才1回交流会をひこなう。日時—11月25日(土) 午後1時半~4時半。場所—立命館大学(広小路)の大学院会議室。内容—①各大学図書館の現状と問題点を話し合って相互理解を深める。②大図研京都支部の今後の活動の構想についてアイデアを出し合う。資料—図書館の利用案内と図書館報の最近号、報告要旨もできれば50部用意する。

2. 例会は年4回程度ひらく。

3. 世話人は毎月1回才3土曜日にひらく。才2回は交流会当日にひらく。場所は各大学もちまわり。代表世話人—酒井(府大) 渡田(龍大) 事務局長—沢居(京大) 全国委員—堤(京大)

4. 機関誌は当面各大学で分担する。才2号は京大、才3号は立命大、才4号は龍谷大。総会(来年夏予定)までに、「ニュース」として月刊で出し、その後本格的な雑誌発行について検討する。

京都支部活動の構想(案)

大図研京都支部の活動については、毎月の世話人会や11月にひかれる

才1回交流会、引続く例会などで話し合っていくことになっていますが、才1回世話人会に事務局から討案として提起された項目を次に紹介しておきます。

支部の活動

1. 大学図書館員の交流を密にする。
2. 大学図書館の伝統と活動について理解を深める。
3. 大学図書館の諸問題について認識を深め、その解決のために共同努力する。
4. 学術や教育はむろん、広く社会の文化的諸問題について生き生きとした関心をもつ活動をする。

主なとりくみ

1. 総会 — 活動の総括と方針、委員会の選出
2. 交流集会 — 教研的要素と懇親会
3. 機関紙の発行
4. 図書館および関連機関の探訪
5. スポーツ
6. 常設研究会
7. 大阪支部との交流(近畿)

機関紙

1. 図書館案内
2. 各館の働き
3. 研究
4. エッセイ(図書館職員と利用者)

△高んたの△

才1回京都支部 交流会

日時：11月25日(土)

P.M. 1:30-4:30

場所：立命館大学
(広小路)

各大学図書館の現状と問題点・支部活動の構想についてのアイデアを出し合おう。

立命館大学図書館の現状と課題

広小路分館 沢田 功

立命館大学は現在、全学をあげ「平和と民主主義」の理念にもとづき80年代を展望する新しい総合大学への発展をめざし、当面一拠点一拠点早期民主的実現を最重要課題として取りくんでいる。

その中で、図書館にも全大学人の要請に応えるべく、課題の設定とそのための内容、体制、条件の検討及び強化と基礎となる図書館の民主化・集団化が求められている。

現状は、一拠点への過渡期(広小路に一部法)としての新たな問題も生じており、一拠点完成時のあり方を想定しつつ、二拠点の矛盾を最少限におさえる政策とその実現がさしせまった課題としてある。具体的には、①集団的レファレンスの向上 ②そのため研修とツールの充実 ③整理の敏速化と機械化及び印刷カード導入 ④図書館実施後の問題の解決 ⑤II部勤労学生へのサービス ⑥逐刊物目録等の整備 ⑦事務組織の再編 ⑧「研究事務体制の整備」等々の課題が設定されている。

これらの諸課題の遂行の要は、取場会議を軸とした取場の集団化民主化をより強固にする点にあり、全館員が私学をとりまく情勢を正確にとらえ、学園の到達点をふまえ、自らの業務に課題をしっかりと結びつけられるようにすることが重要である。そして全館の英知を全学に、全学の英知を全館に生かすことである。

以上のように図書館は大きな課題をにらんでいるわけであるが、現情では種々な不十分や困難があり、他大学の教訓に学びつつ80年代の国民のための私学づくりへ力を結集し前進してゆきたいと考えている。

大学図書館問題研究会 京都支部

12月の催し

1978年12月23日(土)

1. 京大総計簿機センサ・見学

資料がくわく案内してくれます。情報処理の現代の姿。

2. 懇親会

(喫茶"このえ" 4時30分)

町芝刈・ビール等 ¥2500.- 情報、宝庫。(西条町東側)

集合 京大竹屋図書館前 PM 2.00

大学図書館問題研究会 京都支部

連絡先 京都大学経済学部図書室

3階24号 TEL 751-3111

内 3442(講) 3409(室)